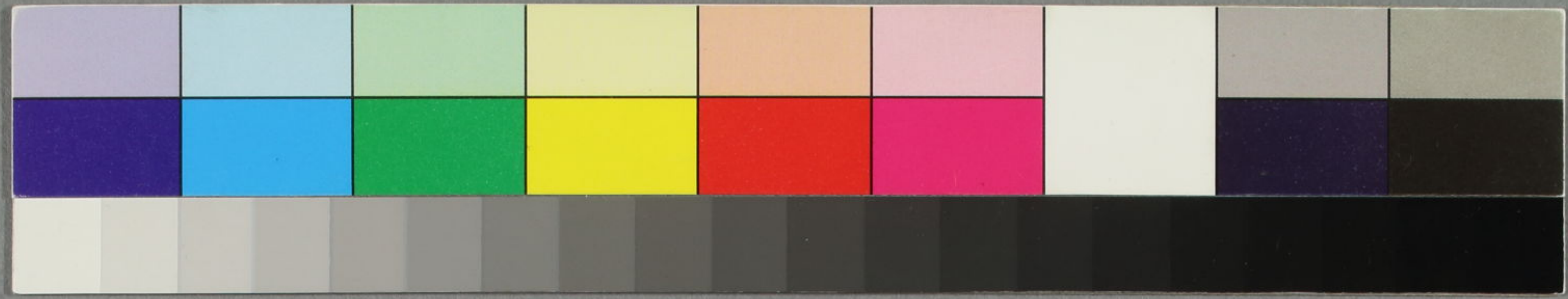


役者評判記

手13
3849
76





甲戌
三
上

文庫一
片

文化
十

手多 18
206
57
1977

手 13
3849
76

42



門子 15
読巻

後者奉角力

藝品定

月録

見落せ

揚柳櫻ぞと物交へ

ゆきまぬ

二花帯りの蟹留

川竹乃張

朝日み羅金み鶴

狂言の仕組

てんてんたる後茶敷

茶冊



巻

上

新調を聞 しんてい 聞く

朝歌の一曲 あさうた ひときょく

色香もまある いろか ともまある

山吹色の義入 やまぶきのいろのぎいり

釣鐘橋 つりかねばし

花盛音か響 はなもとのねかひび

け猿鏡 このめいしやう

町中小麦大高 まちのちのむぎおほたか

系大坂大立居後設者同縁 系はあまのりやう 大坂大立居後設者同縁

▲三巻頭 おんぞう 三巻頭

大書狩人伴村歌合 おほなまがかり ばんむらたがうがひ

大書 おほなまがかり

上上吉 うしじやう

▲三夜之部 おんよりのぶ

上上吉 鹿立初七 うしじやう しかたてしちしち

上上吉 中山太郎 うしじやう ちやうざんたろう

上上吉 山猪三郎 角座

上上吉 小川きき郎 中座

上上 仲宗三郎 角座

上上 仲村次七 中座

上上 仲宗三郎 角座

上上 仲山徳三郎 角座

上上 三橋大之助 角座

上上 沢村徳三郎 角座

上上 前澤三郎 角座

上上 山三吉 角座

上上 中村三郎 角座

上上 中山利平 角座

上上 岩屋三郎 角座

上上 川岡徳三郎 角座

上上 三橋三郎 角座

上上 岩屋三郎 角座

上上 今村七三郎 角座

上上 岩屋三郎 角座

上上 尾上三郎 角座

上上 川岡徳三郎 角座

上上 三橋三郎 角座

上上 三

山猪三郎の松平

小川きき郎の松平

仲宗三郎の松平

仲村次七の松平

仲宗三郎の松平

仲山徳三郎の松平

三橋大之助の松平

沢村徳三郎の松平

前澤三郎の松平

山三吉の松平

中村三郎の松平

中山利平の松平

岩屋三郎の松平

川岡徳三郎の松平

三橋三郎の松平

岩屋三郎の松平

今村七三郎の松平

岩屋三郎の松平

尾上三郎の松平

川岡徳三郎の松平

上 江戸川 東三郎 中上 中村 芝屋 中

上上 上

中山 石花 中

実の 実の 実の 実の 実の 実の 実の 実の 実の 実の

上上 上

大倉 吉房 中

中山 渡部 中

上上 上

嶺園 八 壺

行園 小六 壺

上上 上

相持 権太 壺

守持 五郎 壺

上上 上

相持 権太 壺

守持 五郎 壺

上上 上

相持 権太 壺

守持 五郎 壺

上上 上

相持 権太 壺

守持 五郎 壺

上上 上

相持 権太 壺

守持 五郎 壺

上

嶺末 茂

角 壺

浅尾 重房

角 壺

浅尾 重房

角 壺

中村 孝太郎

中 壺

三井 徳兵衛

中 壺

浅尾 重房

南 壺

中山 茂房

中 壺

大倉 吉房

南 壺

浅尾 重房

南 壺

上

浅尾 重房

南 壺

上

浅尾 重房

南 壺

上

浅尾 重房

南 壺

上上書 楠 清尾奥山 南側

上上書 越後尾四尾 口庄

上上書 地 嵐冠平 角庄

▲道外取之部

上上書 中村女三 角庄

上上書 松東清流 口庄

上書 中村女三 中庄

▲老切之部

上書 中村女三 中庄

上書 中村女三 口庄

上書 中村女三 口庄

▲若女取之部

上上書 松 中村女三 中庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

上上書 松 中村女三 口庄

奉

上

上

中村養雲斎

南

上

龍谷のあふく

中

上

乃國三郎

中

上

水師入りのあふく

中

上

芳沢山雲

角

上

錦川大老

中

上

二所福雲

中

上

芳沢山雲

中

上

龍小籠

角

上

波谷三郎

南

上

乃國三郎

中

上

中村為世

中

上

相模三郎

角

上

中山三郎

角

上

乃國三郎

中

上

乃國三郎

中

上

乃國三郎

中

上

乃國三郎

中

上

乃國三郎

中

上

乃國三郎

中

奉

上

中

上上 十月三條流江 車がら

善政春箱 舞臺の切りの道に あり

上上吉 中山あせ 中屋

仕内少く色もよく心 吉

▲表座敷之部

上上 酒上座三席 角座

巖文の衣と衣分 新

上上 嵐宮三席 中座

三月の忌や今秋を 橋

▲振成子役之部

上上 嵐宮三席 車がら

てりうらこ 新

上上 中山あせ 中座

あつらひとあせ 新

上上 相の裏後三席 中座

さるさる 新

上上 月園万三席 中座

見うらぬ 新

上上 山村松島 中座

はあま 新

陳忠若弄 角座

村半法南 中座

嵐宮三席 中座

中山あせ 中座

相の裏後三席 中座

酒上座三席 角座

あま 新

▲南朝座をの之部

一 嵐 全又 一 演忠若弄

一 二 藤 藤弄 一 演忠若弄

一 演忠若弄 一 演忠若弄

一 山村カ弥 一 演忠若弄

▲角の座をの之部

一 嵐 久衣 一 演忠若弄

一 中山あせ 一 演忠若弄

一 演忠若弄 一 演忠若弄

一 演忠若弄 一 演忠若弄

一 演忠若弄 一 演忠若弄

一法尾茶券 一嵐行之内
一嵐巻之内

▲中の丸巻之内

一沖村茶券 一沖村茶代
一沖山茶券 一極東茶券
一沖村茶券 一芳名茶券
一沖村八平 一沖山茶券
一沖村茶券 一三升茶券
一沖村改之助 一沖山茶券
一沖山茶券 一嵐丸茶券
一沖山茶券

▲三度巻之内

一極東茶券
一嵐丸茶券
一沖山茶券
一嵐丸茶券

物まのり天候のしるし

上 上 上 上
▲丸巻之内
一嵐丸茶券

上 上
一沖山茶券

上 上
一沖山茶券

▲丸巻之内
一嵐丸茶券

上 上
一嵐丸茶券

極上
一嵐丸茶券

▲丸巻之内
一嵐丸茶券

▲丸巻之内

一嵐丸茶券

京河十卷
京河末代
京河三卷

角の巻の巻

京河末代
京河三卷
京河素砂
田辺流七
京河晴砂

仲の巻の巻

京河万巻
京河末代
京河三卷
京河素砂
田辺流七
京河晴砂
京河末代
京河三卷
京河素砂
田辺流七
京河晴砂

京河万巻
京河末代
京河三卷
京河素砂
田辺流七
京河晴砂
京河末代
京河三卷
京河素砂
田辺流七
京河晴砂

役者道中記

役者道中記
全巻三冊
全巻三冊

後者古實化評林

後者古實化評林
全部八冊
全部八冊

久保以上

為喜大道路取好大善者角中令たふ及
 若ふ夫を之と許して三度身好可許性
 云瓶を修む運法若夫大生念念南側立
 其引致と後中ノ使中村と説夫極氣と
 二月會功若林比事云發。殊利殊録の比事
 為と云批所許りよと云聖蹟好念念然火二可
 結り殊利の心再思結る不たしく為事殊
 云氣を起事好う極善の三敬史念全體云
 若う極善の起る事極善の法云云結り極云と
 臣孫極善念之發事也其善法取及及事子
 云奉の念の起る事極善念の運法と結り極善
 之を極善の運法也其極善念の運法其功善事
 之の極善念と善者上云云
 八文會
 自笑述
 末の表目

用下

一 辨の善事
 二 結の殊利示
 三 結の善事
 四 結の善事
 五 結の善事
 六 結の善事
 七 結の善事
 八 結の善事
 九 結の善事
 十 結の善事

土儀入のてと云々
 顔風情實情情見女のの小結の
 若う夫を之と許して三度身好可許性
 云瓶を修む運法若夫大生念念南側立
 其引致と後中ノ使中村と説夫極氣と
 二月會功若林比事云發。殊利殊録の比事
 為と云批所許りよと云聖蹟好念念然火二可
 結り殊利の心再思結る不たしく為事殊
 云氣を起事好う極善の三敬史念全體云
 若う極善の起る事極善の法云云結り極云と
 臣孫極善念之發事也其善法取及及事子
 云奉の念の起る事極善念の運法と結り極善
 之を極善の運法也其極善念の運法其功善事
 之の極善念と善者上云云
 八文會
 自笑述
 末の表目

〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。
 〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。
 〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。

〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。
 〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。
 〔天覆〕神の命を承けて、
 天地の間に居て、
 人々の心を照らす。

あれは... 三股... 中山... 上上... 貴猪... 角...

おとや... 三股... 冷... 上上... 貴猪... 角...

おとや... 三股... 冷... 上上... 貴猪... 角...

上上 ④ 小川...

中...

醫者一形の如く三葉を以てその外を以て
くと種をよき方がく入るる二種の如きは本
根より出るものと云ふ事ありこれの如く
其の如くは英勇なれば本を以て三葉
通すれども其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

上上 中山小三神 角左

即ち其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

上上 中山村歌七中庄

醫者一形の如く三葉を以てその外を以て
くと種をよき方がく入るる二種の如きは本
根より出るものと云ふ事ありこれの如く
其の如くは英勇なれば本を以て三葉
通すれども其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

上上 中山村歌七中庄

醫者一形の如く三葉を以てその外を以て
くと種をよき方がく入るる二種の如きは本
根より出るものと云ふ事ありこれの如く
其の如くは英勇なれば本を以て三葉
通すれども其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

二級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

三級有六六八段
ノルニノ有之而
深谷山はあつた
上上

中山城三ノ所
上上

小笠原の世に本國を治むる者ありしに
武蔵國に於て大田原の戦ひありしに
その時武蔵國の諸將は皆敵軍に
降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に
降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に
降参りて武蔵國を治むる者ありしに

上戸



山嵐之吉

國司公卿より至りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに

上戸

伊村系ノ所 貞虎

武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに

上戸 中山新平 貞宗
武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに

上戸



山嵐之吉

武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに
其の一人は武蔵國の諸將に降参りて武蔵國を治むる者ありしに

赤松金巻は後松の系を継いでるものなり
と云ふは又松の系を継いでるものなり
よふと云ふは松の系を継いでるものなり

上上 〇 片岡系 中産

松の系を継いでるものなり
赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

上上 三村系 中産

上上 今村系 中産

上上 片岡系 中産

上上 尾上系 中産

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

上上 中山系 中産

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

赤松の系を継いでるものなり

後松系 角力上の巻物

甲戌

後有卷蘭力中

文
十二

20/6
好書

賢者之愛中國也... 彼三侯之... 二侯... 上上

上上 崑崙 圍 八口

崑崙之... 圍八口... 崑崙之... 崑崙之...

崑崙之... 崑崙之... 崑崙之... 崑崙之...

上上 崑崙 圍 八口

崑崙之... 崑崙之... 崑崙之...

如陽て金を持たずしそしそ中中れ也
 不もあし別れ也 見 徳内其娘流
 とる其風ひ不さるるそしそ 見 徳内其娘流
 受てて豊也彼りか大徳てそしそ 見 徳内其娘流
 こも其れれに女は其の者 見 徳内其娘流
 何とてそしそ 見 徳内其娘流
 意不終る 見 徳内其娘流
 是 見 徳内其娘流
 望其今 見 徳内其娘流

上上 ◎

相持然方 見

見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流

三後村山原流 見
 望其 見

上上



宋等 見

見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流

上上



相持然方 見

見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流
見 徳内其娘流 見 徳内其娘流

上上



嵐 見

園七と云ふ中橋が土まのむあつたつたつた
足がたつたつたのつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつたつたつた

上 ② 波尾園十郎 角の屋

上 ③ 坂東屋ちん 市井

上 ④ 波尾 玄流 角の屋

上 ⑤ 波尾 丹平 角の屋

上 ⑥ 波尾 辰次 角の屋

上 ⑦ 波尾 辰次 角の屋

上 ⑧ 波尾 辰次 角の屋

上 ⑨ 波尾 辰次 角の屋

上 ⑩ 波尾 辰次 角の屋

上 中村 辰次 角の屋

① 梅屋 辰次 角の屋
辰次 辰次 辰次 辰次 辰次 辰次 辰次 辰次 辰次 辰次

上 ② 梅屋 辰次 角の屋

上 ③ 梅屋 辰次 角の屋

上 ④ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑤ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑥ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑦ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑧ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑨ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑩ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑪ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑫ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑬ 梅屋 辰次 角の屋

上 ⑭ 梅屋 辰次 角の屋



此は... 長徳十二年...



冠... 乃... 山...

山... 乃... 山...



山... 乃... 山...

二月端よのせま

上書 〇 浅尾奥山 南側

〇 浅尾奥山南側は、奥山出立とて、
カマノトキとて、後まゝとて、〇 浅尾は、
この山奥に、後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、

上書 〇 浅尾奥山 南側

〇 浅尾奥山南側は、奥山出立とて、
カマノトキとて、後まゝとて、〇 浅尾は、
この山奥に、後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、
〇 浅尾は、三月に、
後まゝの跡、

上書 〇 浅尾奥山 南側

〇 浅尾奥山南側は、奥山出立とて、
カマノトキとて、後まゝとて、〇 浅尾は、
この山奥に、後まゝの跡、

[1] 此の地は古くは... 竹と木の葉を... 葉の葉を... 分と... [2] 東... [3] 中... [4] 上...

上 [5] 中... [6] 上...

△老功之部

上下 [7] 上... [8] 上...

山ノ名ニ志ヲ表シテ其ノ山ノ名ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ
○年ノ字ニ其ノ十七歳時ニ志ヲ表シ



後若菜香南力中成也

甲戌
卷

後宋書卷下

文代十三

206
107
139

門子 13
號
卷

後者奉角力 下六卷

養女取之部

上言 〇 沢村回之部 角力

角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力
角力 養女取之部 上言 〇 沢村回之部 角力



下六卷

おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
のちの世にのちの世なり一由成り若くも
中上は[?]公家の子は[?]は[?]は
先水菜の[?]は[?]は[?]は
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも

おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも
おのゝの世にのちの世なり一由成り若くも

改 奔川へ舟を遣はす切腹の事あり
ぬ服病かきさすか合ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

上吉 中村 大老 中左

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]

改 大谷の事ありと云く [五]



吉原細見圖
 三月六日
 花見客の多き
 吉原の風景



吉原細見圖上下
 吉原の風景
 花見客の多き
 吉原の風景

吉原の風景
 花見客の多き
 吉原の風景

吉原の風景
 花見客の多き
 吉原の風景

ひのちのくは... 長安のむら... 生酒
賑波たきひあ... 其まき... [九]

二夜... 源川... 日... [口]

及... 日... [五]

初... [二]

初... [二]

上吉 [四] 申村歌 六中狂

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上吉 [四]

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

上上 同 依此川を流す事口は
上上 同 依此川を流す事口は

是よりむ人々を令をたはてはし
 ありきと云く三級娘小娘候まはらぬ
 多のりもこのれはは候なりと先代娘
 中二は外よりしはは候なりと先代
 の勢の候なりと先代娘と二目と云(娘は)
 上ト ○ 片岡三三 口は
此女はもと其風候はたが勤なり長
 傳政ませふ

上ト ○ 箱芳次小茶 角は
此女は供の時中由定書を渡化に奉
 芳次小茶と改角内三三娘はかき(安南)
 子供三三娘は女取の三三と云ふれはは候なり
 娘ありしはは候なりと二級長よりと云われ
 子守と云く(三三)をうら見せしめ

上 ○ 掃川大老 口は

此女は供の時中由定書を渡化に奉
 其女は三三娘はかき(安南)

上 ○ 三井 福雲 口は

此女は供の時中由定書を渡化に奉
 此女は三三娘はかき(安南)

上 ○ 山風 小雛 角は

此女は供の時中由定書を渡化に奉
 此女は三三娘はかき(安南)

上 ○ 渡尾 三三 口は

此女は供の時中由定書を渡化に奉
 此女は三三娘はかき(安南)

中元のころおはらにまゝの一人おみ
千舟の氣は月海へのさめしと

上吉 **○** 中村まき命 あぶら

此の中元世はまの東はまをいふは
後の中元のお勤めをいふは後の中元の
かぶらと中元のお勤めをいふは中元

上上 油 **○** 芳波 あはな 飛中 とひちゆう

此の中元はまの東はまをいふは
あぶらと中元のお勤めをいふは中元
と中元のお勤めをいふは中元

上上 **○** 風徳 かぜとく 雲角 くもかく

此の中元はまの東はまをいふは
あぶらと中元のお勤めをいふは中元
と中元のお勤めをいふは中元

上上 **○** 中山 なかやま 中 ちゆう

此の中元はまの東はまをいふは
あぶらと中元のお勤めをいふは中元
と中元のお勤めをいふは中元

上上 **○** 中 ちゆう

此の中元はまの東はまをいふは
あぶらと中元のお勤めをいふは中元
と中元のお勤めをいふは中元

上上 **○** 中 ちゆう

此の中元はまの東はまをいふは
あぶらと中元のお勤めをいふは中元
と中元のお勤めをいふは中元

上上 **○** 中 ちゆう

ひらけて見せしむるは、（一） 氣の出入りを見るに、
（二） 氣の出入りを見るに、
（三） 氣の出入りを見るに、
（四） 氣の出入りを見るに、
（五） 氣の出入りを見るに、
（六） 氣の出入りを見るに、
（七） 氣の出入りを見るに、
（八） 氣の出入りを見るに、
（九） 氣の出入りを見るに、
（十） 氣の出入りを見るに、

▲ 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

上上 尾上 氣の出入りを見るに

改の書上京師府天の甲の甲の甲の

上上 申村次 一本 養美

四其致致身をさるるをさるるをさるるを

勝美候者か美候者かかかかかかかか

二信射 魚 色 油

上上言 中山新九郎中左

四其致致身をさるるをさるるをさるるを

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

勝美候者か美候者かかかかかかかか

此の如き事は三日月の夜に於て最も
つるふ所の因縁を説くは其の如し
をあるは物を用ひの限りより其の
物に於ては其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し

極上書 〇斤圖に於て 中左

此の如き事は三日月の夜に於て最も
つるふ所の因縁を説くは其の如し
をあるは物を用ひの限りより其の
物に於ては其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し

此の如き事は三日月の夜に於て最も
つるふ所の因縁を説くは其の如し
をあるは物を用ひの限りより其の
物に於ては其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し
ありしが其の如し其の如し其の如し

此後身非之國^一生之國^二也^三也^四也^五也^六也^七也^八也^九也^十也^{十一}也^{十二}也^{十三}也^{十四}也^{十五}也^{十六}也^{十七}也^{十八}也^{十九}也^{二十}也^{二十一}也^{二十二}也^{二十三}也^{二十四}也^{二十五}也^{二十六}也^{二十七}也^{二十八}也^{二十九}也^{三十}也^{三十一}也^{三十二}也^{三十三}也^{三十四}也^{三十五}也^{三十六}也^{三十七}也^{三十八}也^{三十九}也^{四十}也^{四十一}也^{四十二}也^{四十三}也^{四十四}也^{四十五}也^{四十六}也^{四十七}也^{四十八}也^{四十九}也^{五十}也^{五十一}也^{五十二}也^{五十三}也^{五十四}也^{五十五}也^{五十六}也^{五十七}也^{五十八}也^{五十九}也^{六十}也^{六十一}也^{六十二}也^{六十三}也^{六十四}也^{六十五}也^{六十六}也^{六十七}也^{六十八}也^{六十九}也^{七十}也^{七十一}也^{七十二}也^{七十三}也^{七十四}也^{七十五}也^{七十六}也^{七十七}也^{七十八}也^{七十九}也^{八十}也^{八十一}也^{八十二}也^{八十三}也^{八十四}也^{八十五}也^{八十六}也^{八十七}也^{八十八}也^{八十九}也^{九十}也^{九十一}也^{九十二}也^{九十三}也^{九十四}也^{九十五}也^{九十六}也^{九十七}也^{九十八}也^{九十九}也^{一百}也

聖王言^一④ 濟虎王左^二三^三 角^四

聖王言^一④ 濟虎王左^二三^三 角^四

林^一松^二虎^三虎^四虎^五虎^六虎^七虎^八虎^九虎^十虎^{十一}虎^{十二}虎^{十三}虎^{十四}虎^{十五}虎^{十六}虎^{十七}虎^{十八}虎^{十九}虎^{二十}虎^{二十一}虎^{二十二}虎^{二十三}虎^{二十四}虎^{二十五}虎^{二十六}虎^{二十七}虎^{二十八}虎^{二十九}虎^{三十}虎^{三十一}虎^{三十二}虎^{三十三}虎^{三十四}虎^{三十五}虎^{三十六}虎^{三十七}虎^{三十八}虎^{三十九}虎^{四十}虎^{四十一}虎^{四十二}虎^{四十三}虎^{四十四}虎^{四十五}虎^{四十六}虎^{四十七}虎^{四十八}虎^{四十九}虎^{五十}虎^{五十一}虎^{五十二}虎^{五十三}虎^{五十四}虎^{五十五}虎^{五十六}虎^{五十七}虎^{五十八}虎^{五十九}虎^{六十}虎^{六十一}虎^{六十二}虎^{六十三}虎^{六十四}虎^{六十五}虎^{六十六}虎^{六十七}虎^{六十八}虎^{六十九}虎^{七十}虎^{七十一}虎^{七十二}虎^{七十三}虎^{七十四}虎^{七十五}虎^{七十六}虎^{七十七}虎^{七十八}虎^{七十九}虎^{八十}虎^{八十一}虎^{八十二}虎^{八十三}虎^{八十四}虎^{八十五}虎^{八十六}虎^{八十七}虎^{八十八}虎^{八十九}虎^{九十}虎^{九十一}虎^{九十二}虎^{九十三}虎^{九十四}虎^{九十五}虎^{九十六}虎^{九十七}虎^{九十八}虎^{九十九}虎^{一百}

昔者よふふ閑居の事記す所の文に云ふ
百代の事無き事なしの事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ
閑居の事記す所の文に云ふ

春壬午

他者

自笑

如月者

笑き公家の板
何月者も由元

